研究支援報告

急がば回れ

竹内　千仙　　東京女子医科大学女性医学研究者支援室
同　神経内科

略歴：1996 年　東京女子医科大学医学部卒業、医師免許取得
1996 年　同大学病院神経内科入局
2000 年　同大学放射線医学教室（神経放射線科）助手
2003 年　同大学神経内科助手
2005 年　同大学附属東洋医学研究所助手
2006 年 12 月～　女性医学研究者支援室特任助教

【自己紹介】

現在 2 歳 9 ヶ月になる男の子の母親です。私は神経難病である多発性硬化症という疾患の動物モデルを作成し、病態と発症機序に関する基礎的な研究を行っております。第二回女性医師交流会では、講演をさせていただくこととなりました。どうぞ宜しくお願いいたします。

【育児と仕事の両立の現状】

両立できているのか、いつも自問自答しています。子供は産休明けの二ヶ月から保育園に入園し、初めてのお座り、寝返りも、初めて歩いたのもすべて保育園でした。保育園なしでは彼の成長はなかったと思います。0 歳児のころは本当に病気が多く、主人、義母、実母と家族総出で看病してもらいましたが、2 歳を超えてからは親も驚くほど丈夫になり、毎日元気に保育園に登園し、社会性を身に着け、日々成長してくれています。平日は離れている時間が長く、子供と過ごせる時間が限られているため、保育園の送り迎えの時間や、家事の時間、すべてが子育ての時間と考え、子供と向き合うようにしています。研究では実験が長時間におよぶことも多いですが、なるべく仕事を効率よく終わらせるために、文書の作成やデータの整理など家で出来ることは持ち帰り、子供が寝た後などに時間を作るようにしています。子供には遊びや笑いが必須であり、仕事と育児、この両方の生活があることで、私自身のバランスがとれているようにも思います。そのために大人の足で 10 分ですむ帰り道に 30 分以上かかることもしばしばありますが、ゆっくりゆっくり回り道しながら、子育てしてゆきたいと考えています。

【女性医師支援に対する期待や希望】

是非ともこの支援を継続していただきたいと思います。3 年間という期間はあまりに短く、周囲に周知されたころに終了になってしまうのではないでしょうか。これから結婚、出産を志す若手医師、医学生が、継続して支援を受けられることを期待します。また、支援の対象を広げ、子育ての医師をサポートしてくれる周囲への支援を望みます。ワークシェアなどを導入したことで、その講座や医局に何らかのメリットがあるような、子育てバックアップ報償制度を切に希望します。